

## 広島県遺族新聞

成田空港で、入国審査後簡単な解団式で、全員の無事帰国出来た事で、目的を達成出来たと喜んで下さいとの事、この十日間兄弟・姉妹の様にしてきた、団員も此處で全国に散らばつて、帰郷されました。

が出来ました。

一日目、午後一時靖国神社に参加者全員が集合、総括團長の松井尚之氏の挨拶の後、諸手続を済ませて昇殿参拝。

二日目、一行はガルーダインンドネシア航空で成田空港を出発し、長時間の飛行にもみなさん元気でジャカルタに無事到着。

三日目、A班、B班に分かれ、私達A班の八名は、空路ウジンパンダン経由でニューギニア島へ。

原始林のジャングル地帯を目下に見て、目的地ジャヤプラに到着。

「平成二十五年二月一日（十日）」  
北野 誠眞  
広島市南区東雲三丁目九番六号  
この度の西部ニューギニア慰靈友好親善訪問に対し、政府、並びに（財）日本遺族会、広島県、広島市、遺族会のご配慮により、亡き父の眠る戦没地にて追悼できましたことに厚くお礼申しあげます。また、出発に際しましては、献花料を頂戴し重ね重ねお礼申し上げます。

さて、この度の西部ニューギニア慰靈友好親善訪問は日本各地から十七名の遺児が参加、平成二十一年二月一日から十日までの十日間で行われました。又、期間中には、インドネシアとの友好親善目的の一環として当地区の病院、小学校などを訪問し、病院には車椅子、小学校には学用品等を贈呈して現地の方々とも友好を深める事

一人子一人、あの苦難の厳しい時代を乗り越え私を最高学部まで進ませてくれました。

私の子ども四人も結婚をして既に孫も八人おり、今年は寂しい正月でしたが、全員我が家に集まつて新年を迎えました。その時の写真と母の写真を持って来ましたのでゆっくりと見て下さい。

最後に、多くの尊い犠牲者のものと日本は平和で豊かな国になります。二度と悲惨な戦争は起こさないよう恒久平和を祈つております。お父さんお淨土より我々家族を見守つて下さい。と読み上げ

ルにて私が追悼を行つた。日本とインドネシア両国の国旗を掲げて、この度の西部ニューギニア慰靈友好親善訪問に対し、政府、並びに（財）日本遺族会、広島県、広島市、遺族会のご配慮により、亡き父の眠る戦没地にて追悼できましたことに厚くお礼申しあげます。また、出発に際しましては、献花料を頂戴し重ね重ねお礼申し上げます。

さて、この度の西部ニューギニア慰靈友好親善訪問は日本各地から十七名の遺児が参加、平成二十一年二月一日から十日までの十日間で行われました。又、期間中には、インドネシアとの友好親善目的の一環として当地区の病院、小学校などを訪問し、病院には車椅子、小学校には学用品等を贈呈して現地の方々とも友好を深める事

が出来ました。

一日目、午後一時靖国神社に参加者全員が集合、総括團長の松井尚之氏の挨拶の後、諸手続を済ませて昇殿参拝。

二日目、一行はガルーダインンドネシア航空で成田空港を出発し、長時間の飛行にもみな元気でジャカルタに無事到着。

三日目、A班、B班に分かれ、私達A班の八名は、空路ウジンパンダン経由でニューギニア島へ。

原始林のジャングル地帯を目下に見て、目的地ジャヤプラに到着。

四日目、最初の慰靈祭地「コタバル」にて私が追悼を行つた。日本とインドネシア両国の国旗を掲げて、この度の西部ニューギニア慰靈友好親善訪問に対し、政府、並びに（財）日本遺族会、広島県、広島市、遺族会のご配慮により、亡き父の眠る戦没地にて追悼できましたことに厚くお礼申しあげます。また、出発に際しましては、献花料を頂戴し重ね重ねお礼申し上げます。

さて、この度の西部ニューギニア慰靈友好親善訪問は日本各地から十七名の遺児が参加、平成二十一年二月一日から十日までの十日間で行われました。又、期間中には、インドネシアとの友好親善目的の一環として当地区の病院、小学校などを訪問し、病院には車椅子、小学校には学用品等を贈呈して現地の方々とも友好を深める事

司令部が置かれていた洞窟などを見学し、午後からはB班と合流し、第二次世界大戦慰靈碑にて両国の国旗を掲げ参加者全員で国歌斎唱した後、献花、焼香、しめやかに全戦没者の追悼式が行われ今回の目的が果たされました。

八日目、空路、ビアクよりウジンパンダン経由でデンパサールに移動。

九日目、デンパサール市内のイスラム教寺院などを視察した後、真夜中にガルーダインンドネシア航空でデンパサールの空港を離陸し一路成田空港へと向かつた。

十日目、成田空港には午前八時五十分無事到着。入国税関手続を行ひ皆さんとお別れをした。

最後に日本遺族会及び県、市の遺族会の今後の益々のご発展をお祈りいたします。

本当に有難うございました。

五百目、早朝より特別機にて「サルミ」へ、この地では福井、大阪、兵庫、出身の三名の方々がそれぞれ追悼文を読み上げました。

六日目、本日も早朝より一行はビアク島に移動し、「水源地」・「コリム」地区にて福井、京都の方の追悼を今まで同様に行いました。

七日目、午前中、激戦地を物語

（D班）

斐リピン慰靈友好親善訪問団

〔平成二十五年二月六日〕

尾道市御調町今田一六九一四

大本 幹彦

私たち全国より集まつた参加者は、初日の夜、壮行会を催して頂きました。父の戦没方面周辺毎

## 広島県遺族新聞

に班編成され、仲間ができました。その後は、緊張でよく眠れません。その夜は、緊張でよく眠れません。でした。翌朝、成田を発ちマニラに到着。所要時間は約五時間。父は船舶で何日かかったのか?マニラよりお父さんの戦没地に近い方面へ夫々分班。かつての戦地後へ専用車で向かいます。そこは、米軍や現地人ゲリラと戦った跡。山にはヤシの木・バナナなどを想像していましたが、全く何もありません。これでは日本軍は、大敗しき残れるはずがないと思いました。

慰靈碑前では、果物・生花写真などと線香をお供えし、手を合わせます。「ああ、母さんとただ二人栗の実を食べては思いだす:」みんな声をあげて泣きました。

二日目、私の父の亡くなつた現地へは遠くて行けませんでしたが、オリオン岬でカガヤンへ向かつて届け!とばかり追悼文を読みました。【般若心経】を唱えるとき我が墓地の宝鏡印塔を思いだし、涙で文字はかすみます。四歳の時、母が死亡。それを知らずに戦死した父の遺骨(空っぽ)を孤児の僕は抱いて、甲山役場から近所の人連れられ歩いて帰つたことを思い出しました。各戦没地跡を回つて慰靈をするたびに、涙があふれて仕方がありませんでした。

カバナツアンからマニラへ向かいいます。途中、学校訪問。子ども

に明るい笑顔で現代に戻りました。ラに到着。所要時間は約五時間。父は船舶で何日かかったのか?マニラよりお父さんの戦没地に近い

方面へ夫々分班。かつての戦地後へ専用車で向かいます。そこは、米軍や現地人ゲリラと戦った跡。山にはヤシの木・バナナなどを想像していましたが、全く何もありません。これでは日本軍は、大敗しき残れるはずがないと思いま

した。翌日、無事帰宅。  
今回の訪問で、遺族会はじめ関係各位のお世話で供養できたこと何よりです。感謝いたしておりま

す。有難うございました。

した。翌日、無事帰宅。  
今回の訪問で、遺族会はじめ関係各位のお世話で供養できたこと何よりです。感謝いたしておりま

す。有難うございました。

## 父の想い出

広島県 大本 幹彦

私の父は、昭和十二年十二月十

昨日八月、日本武道館にて追悼式に参列。今回は、フィリピン慰靈に参加できます。いずれも、妻

が「供養だからぜひ参加を。留守は何とかするから」と勧めてくれました。

六日広島陸軍運輸資材課に軍属(通信班)として勤務。命令により各港を移動。日本の各港に着く度

戰死者の遺骨を渡す。両親、祖父母、幼子に。最も哀れなのは、

四・五才位の子と母。その姿を見て、「私もあるのよに:」と実母に言つたそうです。その後、結婚し、

私が生まれ男子なら幹彦と名を託して戦地へ。其の後、二度だけ帰宅。私には記憶がありません。

そして、昭和二十年カガヤン州アパリを目指し陸路転進中、とうとう戦死。私は五才でした。

父の遺骨が帰つたのは私が小学二年で九歳。母は既に(昭和十九年病死)亡く、組内の人々に連れられ歩いて甲山役場から父の遺骨を抱いて帰り、すぐ葬式。白い布に包まれた箱はカラカラと音がした

ように記憶していますが、中には何もありませんでした。

その後、父の弟が私の後見人となりましたが、家と田圃以外の先祖伝来の家財類は全て無くなつてしましました。食事もあまり食べ

させてもらえず、栄養失調で倒れ、見かねた母の実家が引き取りました。お陰様で、成人し、結婚。子、孫にも恵まれ、今では気持ちにも余裕ができ農業を生きがいに暮らしています。



筆者：向かって左（スーツ姿）